

梅 崎 勇*: 日本海産藍藻類 (4)

Isamu UMEZAKI*: Marine Cyanophyceae from Japan. (4)

Oscillatoriaceae ユレモ科

19. *Spirulina labyrinthiformis* (Menegh.) Gom., l. c. 255 (1892); Geitl., l. c. 928 (1932); Frémy, l. c. 134, pl. 31, fig. 25 (1934); Yoneda, Cyan. of Jap. 5: 41, fig. 156 (1940).

Oscillaria labyrinthiformis Menegh., Consp. alg. Eug. 9 (1837).

トリコームは他の藍藻類の糸状體間に單獨に生育, 多くは短く, 淡青綠色, 規則正しく密に螺旋狀に廻轉, 徑約 1μ , 廻轉の幅 $2-2.7\mu$ 。—第 17 圖 A。

產地: *Hydrocoleum lyngbyaceum* Kuetz. の糸状體間に生育。廣島縣忠海 (1950 年 11 月); 潮間帯の岩上に於ける *Oscillatoria nigro-viridis* Thwaites と共に生育。京都府舞鶴灣長濱 (1949 年 6 月)。—歐州; アフリカ; 日本 (海産, 汽水又溫泉産)。

20. *Spirulina attenuata* Umezaki, sp. nov.

トリコームは他の藻類群體間に僅に生育, 淡青綠色, 徑 $5-6\mu$, 端部に於て稍細くなる。節部に於て僅に縊れる。隔壁に沿うて顆粒を存しない。細胞の長さ $1.5-2.5\mu$, 徑の $1/2-1/3$ 。原形質は均質。トリコームの廻轉の幅 $13-20\mu$, 其の距離は $50-80\mu$ 。端部細胞は頂冠を存しない。—第 17 圖 B。

Trichomata inter varias algas sparsa, dilute aeruginea, $5-6\mu$ crassa, apice parve attenuata; ad genicula leviter constricta; dissepimenta non granulata; articuli $1.5-2.5\mu$ longi, $\frac{1}{2}-\frac{1}{3}$ -plo diametro longiores: protoplasma homogenum; diametro 13μ ad 20μ aequantem contorta; anfractus inter se 50μ ad 80μ distantes; cellula apicalis calyptram nulla.

產地: *Enteromorpha* sp. 及び *Hydrocoleum cantharidosmum* (Mont.) Gom. の群體間に生育。山口縣關市吉見海岸 (1950 年 11 月)。

本種は *Spirulina Margaritae* (Gom.) Frémy に近縁であるがトリコームの徑が稍細いこと及び其の端部に於て僅に細くなる點に於て異なる。

21. *Oscillatoria chalybea* Mertens var. *anguina* Gom., l. c. 233 (1892); Frémy, l. c. 128, pl. 31, fig. 15 (1934).

植物體は岩上又は他の藻類の間に生育。トリコームは淡青綠色, 緩く不規則に螺旋狀に屈曲, 端部に於て僅に細くなる, 徑 $8-9.5\mu$ 。節部に於て僅に縊れる。隔壁に沿うて顆粒を存しない。細胞の長さは徑の $1/2-1/3$ 。端部細胞は丸く頂冠を存しない。—第 17 圖 C。

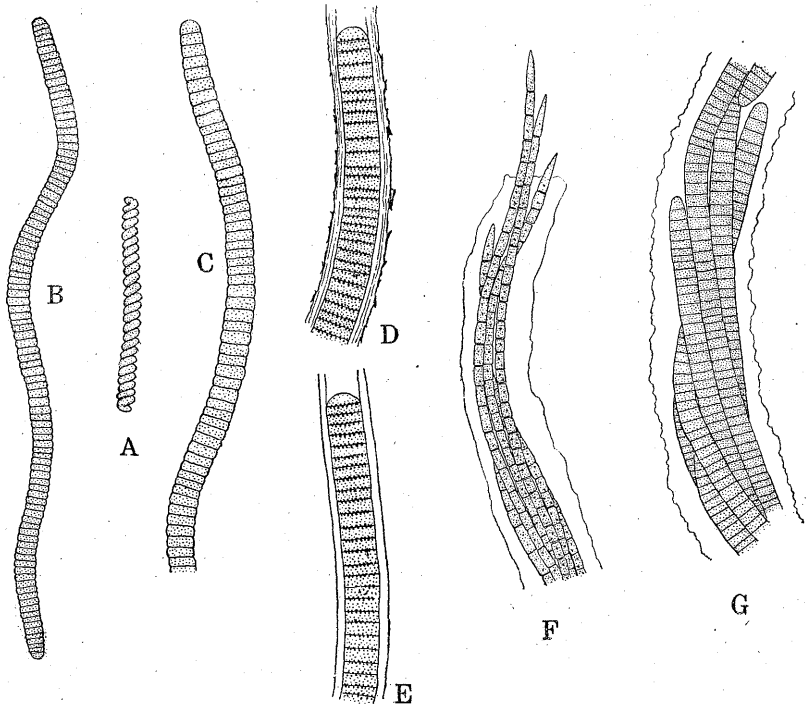
產地: 浮游する *Polysiphonia* sp. の團塊中に生育。北海道北見國佐呂瀨湖 (岩本康三探

* 京都大學農學部水産學教室。舞鶴市長濱。Fisheries Institute, Faculty of Agriculture, Kyoto University, Maizuru, Kyoto Prefecture.

—1947年7月)；潮間帯の岩上に於ける *Hydrocoleum lyngbyaceum* Kuetz. の間又は岩上に生育。和歌山縣白濱町神島 (1951年8月)。—汎分布 (淡水、温泉及び瀛水産)。

22. *Lyngbya Martensiana* Menegh., Consp. alg. Eug. 12(1837); Gom., l. c. 145, pl. 3, fig. 17 (1892); De Toni, Syll. Algar. 5: 279 (1907); Geitl., l. c. 1064, fig. 676 (1932); Frémy, l. c. 107, pl. 29, fig. 1 (1934); Yoneda, Cyan. of Jap. 3: 175, fig. 176 (1938).

絲狀體は岩上に他の藻類と共に生育，非常に長く，直立し多く屈曲する，青綠色，徑10-16 μ 。鞘は無色，幼體に於ては表面は滑，後屢々生長するにつれて粗糲となる，厚さ3.3 μ まで。トリコームは淡青綠色，端部に於て細かくならない，徑6-10 μ 。節部に於て縊れない隔壁に沿うて大きい顆粒を存する。細胞の長さは徑の1/2—1/4。端部細胞は丸く，頂冠を存しない。—第17圖 D—E。



第17圖

A. *Spirulina labyrinthiformis* (Menegh.) Gom. (×750). B. *Spirulina attenuata* Umezaki (×750). C. *Oscillatoria chalybea* Mertens var. *anguina* Gom. (×300). D-E. *Lyngbya Martensiana* Menegh. D. 老成せる絲狀體の端部 (×400). E. 幼絲狀體の端部 (×400). F. *Microcoleus tenerimus* Gom. 絲狀體の端部 (×750). G. *Microcoleus Boergesii* (Gard.) Frémy 絲狀體の一部 (×250).

産地：潮間帯の岩上に於ける *Calothrix* sp. と共に生育。北海道忍路灣忍路 (1947 年 8 月)。—多く汎分布 (温泉, 淡水又は稀に海産)。

本種に於てはトリコームの隔壁に沿うて兩側に大きい顆粒を存するので他の種と容易に區別出来る。

23. *Microcoleus tenerimus* Gom., l. c. 355, pl. 14, figs. 9-11 (1892); Setch. et Gard., Alg. N. W. Amer. 188 (1903); l. c. 87 (1919); Geitl., l. c. 1135, fig. 740 (1932); Gard., Sc. Surv. Porto Rico & Virgin Isl. 8 (2): 288 (1932); Frémy, l. c. 68, pl. 17, fig. 8 (1934).

絲狀體は他の藍藻類の間に單獨に生育, 青綠色, 長くして屈曲, 分岐なく又は極く稀に分岐する。鞘は無色, 多くは粘質化, クロールチンクヨードで無反應。トリコームは淡青綠色乃至オリープ色, 鞘中に多くは多數存する, 徑 1.5-2 μ , 端部に於て長く細くなる。節部に於て明に縊れる。隔壁に沿うて顆粒を存しない。細胞の長さは徑の 1.5-3 倍, 2.2-6 μ 長い。原形質中には小顆粒を存す。端部細胞は尖銳, 頂冠を存しない。—第 17 圖 E, F。

産地：満潮線の岩上に於ける *Hydrocoleum lyngbyaceum* Kuetz. と共に生育。山口縣下關市吉見海岸 (1950 年 11 月); 和歌山縣白濱町瀬戸 (1951 年 5 月)。—汎分布 (海産)。

24. *Microcoleus Boergesenii* (Gard.) Frémy, Dansk Botanik Arkiv. 9 (7): 12, fig. 1 (1939).

Hydrocoleum Boergesenii Gardner, Sci. Surv. Porto Rico & Virgin Isl. 8 (2): 289 (1932).

絲狀體は單獨, 他の海藻上に着生, 無分岐, 不規則に屈曲, 端部に於て細くなる, 中部の太い部分で徑 49 μ 。鞘は無色, 均質, 表面は粗。トリコームは淡青綠色, 徑 6-6.6 μ , 鞘中に 8 個まで, 稍密に網狀に卷く, 端部に於て稍細くなる。節部に於て縊れない。隔壁に沿うて顆粒を存しない。細胞の長さは 1.8-2.6 μ 。原形質は均質, 淡青綠色。端部細胞は鈍圓錐形, 頂冠を存しない。—第 17 圖 G。

産地：潮間帯の *Ulva conglobata* Kjellm. (ボタンアオサ) 體上に着生。和歌山縣白濱町瀬戸 (1951 年 5 月)。蘭領西印度諸島。

本材はボタンアオサ上に唯一絲狀體のみ觀察されたものである。

本種は 1932 年に N. Gardner Boergesen に依つて蘭領西印度諸島から採集した材料を *Hydrocoleum Boergesenii* として發表したもので, 1939 年に至り P. Frémy に依つて *Microcoleus* 屬中に併合された。

本研究中御懇篤なる御指導を賜つた米田勇先生に謝意を表する。

Résumé

This report includes *Spirulina labyrinthiformis* (Meneghini) Gomont, *Sp. attenuata* (nov. sp.), *Oscillatoria chalybea* Mertens var. *anguina* Gomont, *Lyngbya*

Martensiana Meneghini, *Microcoleus tenerrimus* Gomont and *M. Boergesenii* (Gardner) Frémy.

Spirulina attenuata which is reported as new to science resembles to *Sp. Margaritae* (Gomont) Frémy, but it differs from the latter alga in its proportionately narrower trichome and in its slightly attenuated end of the trichome. *Microcoleus tenerrimus* Gomont and *M. Boergesenii* (Gardner) Frémy are new records for Japan.

○朝比奈泰彦博士の日本之地衣第二冊ウメノキゴケ屬 Prof. Asahina's "Lichens of Japan, vol. 2. Genus *Parmelia*" published by Res. Inst. Nat. Resources, Tokyo, 1952.

原子爆弾に次いで水素爆弾が破裂したように、先にハナゴケ屬のモノグラフを完成して世界の地衣學界に巨弾を浴びせた朝比奈先生が、その第2弾として再び大物のウメノキゴケ屬を完成して發表された。現下の出版事情から第一冊のように書店から出版されずに、資源科學研究所から發行されたが、400圓という定價を附して誰でも自由に買える方法で出版されている。しかも本誌の購讀者や植物學會會員、大學高校の教室や學生には特に350圓で分譲する由であるから、東京都新宿區百人町4の400資源科學研究所に郵便32圓を加えて申込みばよい。體裁も内容も第一冊ハナゴケ屬と同様で、總論として葉體とその構造、繁殖器、種の區別の基調、組織研究法に關する注意、日本産ウメノキゴケ屬代謝産物の檢索表、ミクロ化學的確定試驗があり、各論として日本領土内に産するウメノキゴケ屬75種10變種28品種を3亞屬7節に區分して記載してある。本文162頁にアート紙刷圖版28葉が卷末についている。(佐藤正己)

○原寛博士著日本種子植物集覽第二冊 Dr. Hara's *Enumeratio Spermatophytarum Japonicarum II* (March 1952) published by Iwanami Shoten, Tokyo.

昭和24年6月出版された第1冊につづくもので、今回の第2冊(本文280頁、定價900圓、岩波書店)はアカネ科→キク科を内容とし、これで後生花被植物は完結した。本書については既に第1冊の出版の際に本誌23巻7-12號に久内清孝氏が紹介された。本書の完結はひとり分類學に興味あるものばかりでなく、植物をとりあつかう總ての人に要望されている。今日合瓣類の部が著者のたゆまぬ努力により完成し、また文部省科學出版助成金によつて比較的低廉に發行されたことは喜ばしく、さらに次の古生花被植物篇がまたれる。内容形式は第1冊に同じであるが、たゞ本冊から著者の特に検討したものに星印をつけることにしたので著者の意見は更に明瞭となつている。(木村陽二郎)